

専修学校概要・進学ガイドの発行

専修学校に関する様々な情報を盛り込んだ冊子を刊行しています。

進学ガイドは高校生等が進路選択や学校選びを行う際のガイドとして、仕事ガイドとセットで刊行しました。2022年版は8月刊行予定です。

また、専修学校概要は高等学校教員による進路指導の際に役に立つ、専修学校に関する詳細な情報が盛り込まれた資料です。2022年版は4月刊行予定です。



教員能力認定研修会

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会では私立専修学校各種学校教員の資質の向上を図り、優れた教員の確保に資することを目的に、教員能力認定研修会を毎年開催しています。

また、平成28年度から北海道の指定を受け、北海道知事が発行する「研修修了証明書」並びに「教員資格証明書」を得ることができ、「職業実践専門課程」の認定要件である研修会としても活用できる研修会となりました。

令和2年度は7月27日～31日、8月3日の6日間にわたり11校から延べ129名の受講をいただき開催いたしました。

引き続き次年度も開催を計画しておりますので、多くの教職員及び教員を志望する皆さまの受講をお願いいたします。



【令和2年度開催実績】

研修日	科目	担当講師
7月27日(月)	教育方法論	前 田 賢 次 (北海道教育大学札幌校准教授)
7月28日(火)	教育制度論	木 村 純 (北海道大学名誉教授)
	職業教育論	加 賀 千登世 (プランナー・コピーライター)
7月29日(水)	教育概論	井 上 大 樹 (札幌学院大学准教授)
7月30日(木)	総合自由科目Ⅱ	吉 田 聡 子 (北海道クリエイティブ(株)代表取締役)
	総合自由科目Ⅰ	神 田 裕 子 (オフィスレアリーゼ代表)
7月31日(金)	専修学校教育論	大 山 節 夫 (学校法人吉田学園学園長)
	青年心理学	山 谷 敬三郎 (北翔大学・北翔大学短期大学部学長)
8月3日(月)	教育心理学	北 守 昭 (EWS 感性科学研究所代表)

文部科学省委託事業「職業教育魅力発進力強化事業」

令和元年度から2年度にかけて、文部科学省の「専修学校と地域の連携深化による職業教育魅力発進力強化事業」を受託し、職業体験講座や出前授業といったいわゆる「職業体感型教育」の意義や効果を検証するとともに、職業体感型教育に取り組む際に参考となる「開催マニュアル」を作成しました。

職業体感型教育が全国で実施され、中学・高校生の職業、勤労に対する理解向上を図り、職業適性のミスマッチや早期離職の減少を期待するものです。

本事業の各年度の成果報告書は北専各連サイトから閲覧・ダウンロードができます。ぜひご覧ください。

【本事業における取組】

- 1 中学生、高校生等を対象とした職業体験講座等の開催**
北専各連ではこれまで道内の中学生や高校生等に職業体験講座を開催しています。これらを開催することで「職業体感型教育」等の効果的な手法を検討しました。
- 2 職業体感型教育等に関する調査の実施**
専修学校や中学校並びに高等学校など「職業体感型教育」の関係機関(者)に調査を行い、収集した意見を効果や課題等を検討する際の資料としました。
- 3 職業体感型教育に関する分析・評価**
令和元年度には「職業体感型教育に関する分析・評価」を実施するとともに、今年度は「企業(就業)の観点からの職業体感型教育の意義と効果」を分析・評価しました。

4 職業体感型教育等に係る開催マニュアルの作成

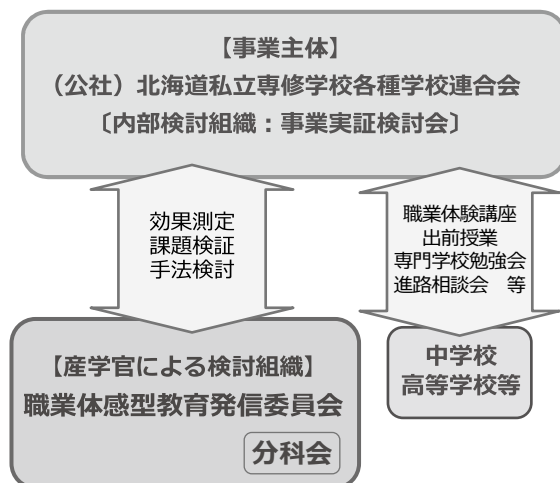
これまで北専各連が展開してきた職業体感型教育等をもとに、職業体感型教育に取り組もうとする際の参考となる「開催マニュアル」を作成しました。

【本事業で作成した開催マニュアル】

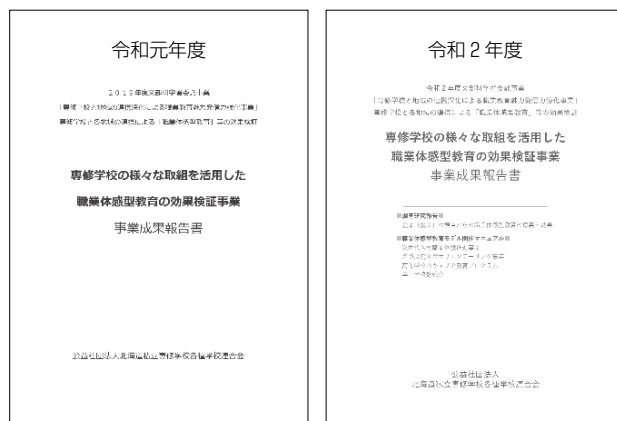
- ①次世代人材職業体験推進事業
- ②進路探究学習オリエンテーリング事業
- ③高等学校内キャリア教育プログラム
- ④専門学校勉強会



【事業の実施体制】



【事業成果報告書】



北専各連のサイト (<https://hsu.ac>) から閲覧、ダウンロードができます。

令和2年度教員能力認定研修会 レポートの講評と優秀レポート

教員能力認定研修会の研修科目のうち「教育概論」と「教育心理学」はレポート審査を行い、合格することが認定の条件となっています。この科目を受講した方には、出題されたそれぞれのテーマで800字のレポートを手書きで作成し、提出いただいています。

令和2年度は「教育概論」12名、「教育心理学」14名からレポートを提出していただいた結果、提出者全員が合格となりました。審査を行った審査委員(担当講師)のレポートの講評と、教員能力認定委員会において優秀レポートとして選出されました「教育心理学」のレポート2編をご紹介します。

■「教育概論」審査委員、担当講師

井上 大樹(札幌学院大学准教授)

■レポートのテーマ

社会的自立に関わる今の若者の困難の実態を説明し、これからの社会的自立の条件及び専門学校で重点すべき教育実践について自分の見解を述べる

■講評

今年度の講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、アクティビティが実施できず、希望者のみスマートフォンによる意見交換にとどまった。膨大な情報のシャワーを一方的講義で浴びることになり、学生、教職員の区別なく、十分に情報を整理することなくレポート執筆に臨むことになったことが文面からも十分伺えた。このような結果に至った要因は講義形式にあることは否めず、この点においては、講師から受講生の皆さんにお詫び申し上げます。

一方で、「新しい生活様式」(ニューノーマル)においては「対面」の機会や時間という「量」で学習を推進させることは非常に困難になることは確実である。よって、目指すべき学習者の姿とは「自ら積極的に、かつ、深く考える」ことではないだろうか。数名の受講者は、「社会的自立の条件」及び「これからの専門学校に求められる教育実践」にこのことを指摘していた。また、「一人ひとりの実情やニーズに合わせる」ことも多くの受講者が指摘しており、「個別最適化」を目指す教育政策の考え方とも合致している。ただ、肝心の「教育実践」にどう反映させるかのアイデアにより具体的、効果的に踏み込んだ内容が見られなかった。これまでの教育では対面授業におけるアクティブラーニングで直接扱った内容であるが、今後は校種にかかわらず、「調べ」、「考える」場面は各自で時間をつくり、取り組むことになる。

日頃からの「自ら学ぶ姿勢」の励行及び自分の経験に根ざした具体的な指導力は、多様な学習者を迎え入れる、専門学校の教職員に今こそ必要であることを提言し講評のまとめとする。

■「教育心理学」審査委員、担当講師

北守 昭(EWS感性科学研究所代表)

■レポートのテーマ

Social networkなどの社会的交流と個人の生き方の関わりについて、人の心の部分、とりわけ、自己肯定感、他者理解の視点から現状の理解と方向性について

■講評

今日、1人1人が自由に生きられる多様性の社会と云われて久しい中で、益々狭まっていく社会的交流の場という状況において、今後、取り組んで行く必要のある教育課題として、個は社会とどう向き合うことによって、依存から自律性への途を探っていったらよいかを考えていただく機会として、上記のテーマを設定しました。

キーワードとして、社会的交流の場としてネット社会、自己肯定感、他者理解(共感的能力)を手掛かりに記述していただければと思います。一言でいえば、自己肯定感とは、未来に向かって、夢と希望を持って生きる力、他者理解とは、他者の楽しみや苦悩を思いやる想像力と云えるでしょう。

そこで評価基準として、ひとつはネット社会と個人の関わり方の現状分析力と課題の発見、もう一つは教育の場における役割と対処法の以上2点について、総合的に判断しました。結果、14名全員、基準値(合格ライン)に達していると考えました。

現状分析の中で、浮き彫りになったこととして幾つか挙げてみますと、ネット社会と関わるようになって自己承認欲求や自己肯定感の低下(劣等感、自己否定)など人との比較により他者からの影響をうけるようになった。仮想社会(ネット社会)と現実社会の両者の交流において、現実社会との交流がより少なくなってきた。仮想社会(ネット社会)の匿名性という特徴から、他者への誹謗中傷やトラブル(いじめや晒し)という倫理、道徳性の低下も浮き彫りになってきた。それにもかかわらず、利用度の高まりは今後も続くであろうとの指摘も多い。

一方、今後の対処法として、教育の役割として社会的ルールの構築、未熟な子供に対しては、倫理・道徳心を育てるモラル教育の必要性、SNSやインターネットの使い方と同時に、使用しない授業の大切さを教える、SNSの使用と時々、自己を振り返ること(依存から自律性)の必要性の強調が提示されていました。

優 秀 レ ポ ー ト

北海道芸術デザイン専門学校 後藤すみれ(学生)

青年期は一般的に内面的な関わりを通して健康な成熟を形成していく時期であるが、現代の青年は表面的な関わりや楽しさを求める傾向にある場合が多いという。それがSNSの普及によるところが大きいというのは、当事者である私も感じるところである。青年期の自我形成は一部に自尊感情がかかわっていて、知覚された自己と理想とする自己が絡み合って自我が形成される。SNSによって他者の「自己」の良いところばかりが見えてしまう現代において、自分の価値を短絡的にも上げ、自己肯定感を保とうとするのは自然なことであると考ええる。すなわち内面的な関わりのように他者に見えないものよりも、表面的であっても理想的な自分を表現することを優先してしまいがちなのである。

SNSに求めるものが情報収集である人もいるが、ほとんどの人が単に楽しいから、便利だからという段階をすぐにこえてしまうように見える。SNS依存の心理的傾向のなかで自己肯定感の低さによる承認欲求の高まりがあるが、特に自分の価値に敏感な青年期に他者との比較が安易なSNSの世界に入ることで、もともと承認欲求が低かった人もだんだんSNSの闇に引っ張られていってしまうことが考えられる。また、匿名で利用することもできるため、思想の押し付けや誹謗中傷も容易である。バーチャルな世界での一体感や、現実の自分とは違った存在であるという意識が、共感性の偏りを生んでしまうこともあるだろう。

これらの現状に対して今後は、リアルに寄り添った対応が求められる。誹謗中傷などの身勝手な行動に対しては、開示方法の簡略化を進めなくてはいけないと思う。同時に冤罪対策も必須であろう。また、現実とSNSを結びつけ過ぎて苦しんでいる人のために、専門のカウンセラーを配置することも役立つと考える。SNS世代でないおとなの多くが、批判の域を超えてくれることを願っている。

北海道文化服装専門学校 安藤美琴(学生)

現代社会において、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)は人と人が関わる上で大きな役割を担っている。物心がつく頃には家にパソコンやスマホがあり、ネットと関わらずに生活したことがほとんどない若者も大勢いるだろう。大変便利な時代になったが、心身ともに未発達で自立・自律がまだできていない若者がSNSを使うと、昔は考えられなかった新しい問題が生まれてくる。

大人と比べて精神的に自立していない若者が人と人、自分は自分だという考え方が確立する前にSNSを利用し、世界の優れた人間たちを目の当たりにしてしまうため、自分の得意分野や自信のあることと比べて自己愛が消失してしまうのだ。また、最近社会問題になっているSNSいじめは、された側の自己肯定感が下がるのは言うまでもないが、する側は他人を批判することで自己肯定感や正義感を高めている節があり、他者理解や自律ができないのだ。

こうしたSNS利用による個人の生きづらさや悪質ないじめなどの問題、さらにコロナの状況から、最近では若者のSNS離れが始まっているというデータも出ている。しかし、もはや、若者にとってSNSを完全に利用しないという選択は出来ないだろう。生きていく上で人間関係は欠かせないものだが、SNSがそれを担っている割合があまりにも大きい。

そこでこれからの時代では、子どもたちがSNSを使って人間関係を築くことを前提とした教育が必要だと考える。まず、生徒全員にそれぞれの良さや個性があり、テストや通知表で能力を数値化し他者と比べやすい状況を作るのを学校側がやめること、各々の才能を見つけ、認め、伸ばすこと、人を傷つけてはいけないという道徳心を子供たちの「当たり前」にすることに重点をおいた教育をしていけば、SNSを使いつつも自立・自律した人間として自己肯定感を失うことがなく生きていけるのではないだろうか。

令和3年度事業計画

本連合会は、北海道の私立の専修学校及び各種学校における教育の振興を図り、もって教育水準の向上発展に寄与することを目的として、令和3年度において私立専修学校各種学校に関する研修会を始めとする職業教育を行う専修学校各種学校の支援等に繋がる各種事業を展開いたします。

公1事業

北海道内の職業教育の充実を図ることによって、北海道における教育文化の高揚に資する事業

(1)「北海道まちかど学園」事業の実施

生涯学習社会を迎え、「誰もが、いつでも、どこでも、何でも学び生き生きとした社会を創る」ことを目的として、道民を対象として道内各地の専修学校各種学校を活用した公開講座を開講します。

(2) 北海道高等学校進路指導協議会等との連携事業

進路指導を行う高等学校の教職員等に、専修学校や各種学校が提供する職業教育への正しい理解をもってもらうことを目的として、北海道高等学校長協会(公私立)及び北海道高等学校進路指導協議会と連携し、高等学校の進路指導担当教員と専修学校等の教師を対象とする研究会や情報交換会、進路指導相談会等を開催・実施します。

(3) 高校生向け出前事業

職業体験等を通じてキャリア教育の推進・充実を図ることを目的として、高等学校と連携し、より多くの高校生を対象に高等学校内キャリア教育プログラムを実施します。

(4) 次世代人材職業体験推進事業の実施

若年者の職業観、勤労観の形成不足等による地域社会の課題の解決に向けて、職業体験の機会に恵まれない中学生を対象に職業体験講座等、専修学校を活用した職業体験支援事業を展開します。

(5) 進路指導相談会の開催

北海道高等学校長協会及び北海道高等学校進路指導協議会と連携を図り、新規学卒者(高校生)、キャリアチェンジを希望する者(社会人、短大大学生)、定職に就くことを希望する者(フリーター、派遣職員等)、保護者、教師等を対象に、就ける職種や職業を考える場を提供するとともに、各分野の会員校が有する職業及び職業教育情報並びに専修学校等に関する情報等を提供します。

(6) 各種刊行物の刊行

- ・高校生が進路として見出した専修学校等が何を指し、て職業教育を行うところなのか等を見極め、高校生や進路指導の教師が正しい理解を得るために、「進学ガイド」を発行します。
- ・高等学校教員に専修学校が提供する職業教育のカリキュラム等の内容を正しく知っていただき、高校生の進路のミスマッチがないよう指導していただくために、「専修学校概要」を発行します。

(7) インターネット事業

インターネット上に、ホームページを開設することにより、広く一般に当連合会の活動や私立専修学校各種学校における職業教育への理解を深め、誤った進路選択を是正するとともに、私立専修学校各種学校の振興発展に資することを目的として情報発信を行います。

公2事業

北海道内の私立専修学校各種学校を支援することによって、北海道における教育文化の高揚に資する事業

(1) 教職員の資質向上事業

職業教育の充実と教職員のさらなる資質向上を図ることを目的として、より多くの参加者を募って教育研修大会を開催します。

(2) 教職員退職手当給付事業

教職員の待遇面における格差を是正し、職業教育を提供する優秀な人材を確保するとともに、専修学校各種学校の教職員が安心して教育活動が行うことができる環境を整備するため、設置者(校)に対する支援を行います。

研修事業への協力

教職員の資質向上や専門学校の質保証向上のため、北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会が開催する教員能力認定研修会や職業実践専門課程に係る研修会の開催に協力します。

令和3年度予算は公益社団法人北海道私立
専修学校各種学校連合会のホームページ
(<http://hsu.ac>)でご覧ください。

要望活動等

●国に対する要望活動

令和2年10月2日に「自由民主党北海道支部連合会政策懇談会」が開催され、私立専修学校が抱える懸案事項の解決に向けて、次の3項目を要望しました。

- ・職業実践専門課程認定制度の推進と認定課程のある専修学校に対する新たな財政支援措置
- ・既存大学等に準じた新たな財政支援措置
- ・施設に対する恒久的な災害復旧補助制度の創設

●北海道議会意見書の採択

令和2年第4回定例道議会において「私立専修学校等における専門的職業人材の育成機能の強化等を求める意見書」が採択され、内閣総理大臣、関係大臣に提出されました。

●道に対する要望活動

令和2年10月7日に「自由民主党北海道支部連合会団体政策懇談会」が開催され、私学団体が一堂に会して各団体が抱える懸案事項の解決に向けて要望しました。北専各連からは、次の5項目を要望しました。

- ・管理運営対策事業補助金の増額
- ・職業実践専門課程認定課程認定校に対する新たな財政支援措置
- ・教職員退職資金給付事業補助金の増額
- ・高等課程生徒に対する授業料軽減措置の拡充
- ・職業実践専門課程認定教員研修事業補助金の継続

また、道総務部、経済部に補助金の増額等を要望しました。

●札幌市に対する要望活動

令和2年11月9日に「自由民主党札幌市支部連合会政策要望懇談会」が開催され、札幌市教育委員会から北専各連札幌支部が受託している「進路探究学習オリエンテーリング事業」について、より多くの中学生が受講できるよう事業内容と財源の拡充を要望しました。



令和2年度受章者

令和2年度に叙勲を受章された方及び北海道社会貢献賞を受賞された方に対し、その栄誉を称え心から祝意を表しますとともに、会員の皆様に受章者の功績をご紹介します。

叙勲 (瑞宝双光章)

学校法人浅井学園

理事長

浅井洋子氏

氏は、昭和50年4月に学校法人浅井学園北海道ドレスメーカー学院教員に就任、学院長代理を経て昭和55年2月に学院長に就任、平成31年4月に学校法人浅井学園理事長に就任され、永年にわたり多くの優秀な人材を輩出するとともに、職業教育、幼児教育の充実と発展に貢献してこられました。

この間、全国専修学校各種学校総連合会代議員、北海道私立専修学校各種学校連合会等の役員を歴任され専修学校の振興に貢献されるとともに北海道私立学校審議会委員等の公職を務められ、地域振興に貢献されました。

また、中国魯迅美術学院名誉教授、中国哈爾濱大学客員教授に就任され、美を通じた日本と中国の交流発展に貢献されています。

北海道社会貢献賞 (私学教育功績者)

学校法人吉田学園 専門学校
北海道自動車整備大学校

校長

吉田孝弘氏

氏は、昭和53年12月に学校法人吉田学園札幌経理専門学校教員に就任、札幌総合福祉専門学校等の副校長、北海道体育大学校長、平成25年からは北海道自動車整備大学校長として永年にわたり職業教育の充実と発展に貢献してこられました。

特に「専門士」、「高度専門士」、「職業実践専門課程」の教育課程を速やかに編成し、職業教育の質の向上や学生の高度な学習機会を提供してこられました。

また、中高生を対象とした職業体験講座の実施などキャリア教育の向上に貢献されています。